

## 作業療法 第41巻 第6号 (通巻231号) 目次

### ◆巻頭言

[プロフェッショナルとスペシャリスト](#)・・・・・・・・・・三木 恵美 629

### ◆学術部報告

[作業療法疾患別ガイドライン](#)

—注意欠如・多動症, 自閉スペクトラム症, 発達性協調運動症—・岩永 竜一郎・他 631

### ◆原著論文

[内部障害リハビリテーションの目標設定に関するスコーピングレビュー](#)  
二・・・・・・・・・・米嶋 一善・他 640

[人工股関節全置換術を施行した変形性股関節症患者における入浴状況と関連要因](#)  
・・・・・・・・・・穴田 聡・他 656

[後天性脳損傷後に自動車運転を中断した当事者と家族の経験](#)

—質的研究Meta-studyを用いて—・・・・・・・・・・那須 識徳・他 663

[大腿骨近位部骨折患者の入院時栄養評価と日常生活動作の改善および自宅復帰率との関連性](#)  
・・・・・・・・・・戸田 皓之・他 676

[作業中心のEvidence-based practiceにおけるコンピテンシーの質的解明](#)  
・・・・・・・・・・廣瀬 卓哉・他 686

[急性期脳卒中後の上肢麻痺に対する修正CI療法の1年後経過](#)

—ケースシリーズ研究—・・・・・・・・・・小渕 浩平・他 694

[急性期脳卒中後の上肢麻痺に対する修正CI療法の短期効果の推定](#)

—傾向スコアマッチングを用いた後ろ向きコホート研究—・・・・・・・・小渕 浩平・他 703

### ◆実践報告

[回復期リハビリテーション病棟退院後に遠隔CI療法を実施した一事例](#)  
・・・・・・・・・・佐藤 光・他 711

[急性期の複視に対する視覚と体性感覚の統合機構へ治療介入を実践した脳幹梗塞の1例](#)  
・・・・・・・・・・小柳津 章允 719

[肩関節痛に配慮した複合的な上肢機能練習により, 日常生活における麻痺手の使用行動が向上した脳卒中後の一例](#)

—症例報告—・・・・・・・・・・河野 真太郎・他 725

[Excessive daytime sleepinessを呈するパーキンソン病患者への生活リズム再構築に向けた探索的マルチコンポーネント介入](#)  
・・・・・・・・・・嶺 愛優人・他 733

### ◆短報

[回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の自宅退院3ヵ月後の本人と主介護者のHRQOL に影響を与える因子の検討](#)

—予備的研究—・・・・・・・・・・山本 恵利香・他 741

## 編集後記

▶先日母校を訪ねる機会があった。随分と様相が変わったが、図書館は記憶の中と同じだった。大学院生時代には、ベテラン勢に少しでも追いつけるよう、毎日文献を探して読み漁っていた。海外からの文献の到着を何日も待ったし、コピーカードなどは何枚購入したことか。辞書を引き引き1ページ読むのに1時間もかかっていたことが懐かしい。翻って現在、パソコンを立ち上げれば、国内外のたくさんの文献が瞬時に手に入る。文中のわからない単語もすぐに検索できる。それなのに実は本誌をいまだに冊子で読んでいる。旧人類だから？それは確かだが、冊子にはどこでも数人で頭を突き合わせて読める良さがあるように思う。感謝。  
(K・O)

▶今回掲載された論文を見渡すと、文献研究（スコーピングレビュー）から事例研究、ケースシリーズ、コホート研究、質的研究など、研究デザインは多岐にわたっています。研究デザインの選択について、「自分が慣れている研究デザイン（手段）を基準にして研究テーマ（目的）を選択してしまっているのではないか」とふと思い返しました。本来目的が先に来るべきところを、手段が先になってしまっは本末転倒です。巻頭言で三木恵美先生が「プロフェッショナル」について言及されていますが、研究デザインという観点から本誌を手にとって読み直し、知識を更新することもプロフェッショナルに近づくための重要なプロセスかもしれないと思いました。  
(H・K)